

# 社会福祉法人若葉会

## 平成 28 年度事業報告書

### 1. 法人の概要

#### ・施設並びに事業

保育所型認定こども園 わかば保育園  
病後児保育事業：子育て支援拠点事業  
小規模保育所 わかば保育園  
塩沢金城わかば児童館  
放課後児童クラブ 金城クラブ  
放課後児童クラブ わかばクラブ  
塩沢デイサービスセンターゆきつばき  
居宅介護支援事業所ゆきつばき  
雲洞デイサービスセンターつばき園  
雲洞グループホームつばき園

#### ・役員 別紙（法人役員名簿参照）

#### ・その他

姉妹法人 学校法人 金城学園

### 2. 事業の概要

- ・各施設管理者の育成
- ・各施設の事業計画に基づく事業の遂行
- ・職員研修並びに育成

### 3. 財務の概要

#### ・平成 28 年度計算書類参照

資金収支計算書  
事業活動計算書  
貸借対照表  
財産目録

### 4. 本年度の主な施設整備

放課後児童クラブ 金城クラブ わかばクラブ 増改築事業(安心子ども基金)

#### ・職員駐車場整備

平成 28 年 9 月末完成

### 5. 監査報告

#### ・監事による監査報告

以上

## 社会福祉法人 若葉会 理事・監事名簿

任期 平成 29 年 6 月 20 日から

就任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

平成 29 年 6 月 20 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
理事長	角谷 正雄	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園園長 南魚沼市教育委員
理事	角谷 教恵	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園 保育園長 塩沢金城わかば児童館館長
理事	大平 梨花	保育所型認定こども園 わかば保育園長
理事	岩田 拓	塩沢デｲｰﾋﾞｰｾﾝﾀｰゆきつばき 施設長
理事	南雲 武仁	雲洞デｲｰﾋﾞｰｾﾝﾀｰつばき園 施設長
理事	岡田 稔	東京福祉大学 教授 元 宮城県介護福祉士会長
監事	桐生 厚義	桐生司法書士事務所長 (福)雪国ボランティア苦情第三者委員
監事	阿部 淳	(株)雪国リゾートインフォメーション代表取締役 (株)喜太郎商店代表取締役
監事	八木 三男治	元 小学校長 元 主任児童委員

## 社会福祉法人 若葉会 評議員名簿

任期：平成 29 年 4 月 1 日から

就任後 5 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

平成 29 年 4 月 1 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
評議員	高野 信義	金沢屋酒店会長 元 塩沢町議会議員 元 南魚沼福祉会理事
評議員	須藤 利春	ｽｯｶﾝｽﾀｰ酒店会長 元 塩沢町商工会理事
評議員	小林 英樹	小林整骨院院長
評議員	桑原 博	桑原織物社長 主任児童委員 塩沢地区青少年健全育成会会長
評議員	洲崎 裕子	つむぎの里役員 塩沢地域育成会役員 元 金城幼稚園 PTA 副会長
評議員	山田 浩史	社会福祉法人 清栄会 群馬県社会福祉協議会評議員 前橋市社会福祉協議会理事
評議員	高野 武彦	南魚沼市社会福祉協議会会長
評議員	貝瀬 幹夫	南魚沼市民生委員・児童委員

平成28年度 施設別 年間事業報告  
施設名( 認定こども園わかば保育園 )

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがたにしか担えないこと、私たちがから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		
理念	家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
項目	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 認定こども園としての保育理念・保育目標の理解と実践 保育内容と行事への取り組みの保育説明の充実	生命の保持(健康管理や事故に対する予防)を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境	11月の初旬の早いうちに感染症(インフルエンザ・胃腸炎)が流行し少人数のうちに食い止められなかった。 職員の健康管理にも心がけ予防意識を高めるようにした。
		子どもの心身の発達や変化、子育てに必要な情報など、子育ての手助けになれるようなアドバイスと保育説明の充実	保育参観や地域の支援事業等で園での取り組みをアピールできる保育者が増えた保護者にも評価を得られた。
		保育の取り組みを行事の中で説明できるような行事内容の策定	わかば保育園なりの行事を確立し子どもも保護者も自分を発揮できる行事にし評価を得られた。
	2 保育計画策定と記録の充実	子どもの様子や保護者の希望(日々の連絡帳・登降園)、関係者の意見を取り入れた支援計画の作成と記録の仕方を向上	連絡帳の記述から保護者の違和感にすぐに気づくことが出来ず苦情につながったため連絡帳の読み取りの大切さについて全職員で研修を行い意識統一を図った。
	小学校に繋げる要録の策定	小学校へ繋げる保育・教育を展開すると共に、記録の充実を図る(小学校教師との研修会や申し送りを充実させる)	小学校との連携を密にして小学校へ繋げるために何が必要かを話し合ったり、研修で得たものを取り入れた。
3 人材育成と職員の資質向上	キャリアアップシートを活用し職員の質の向上を図る 職員自らが学びたい内容の園内研修を立案し、保育技術とモチベーションのアップにつなげる	キャリアアップシートの改善が必要 シートの点検だけではなく職員のレベルアップにつながるような取り組みの流れを形にしていきたい。 現在必要な園内研修をその都度開催し職員が迷っていたりうまく連携の取れない部分を整理した 職員同士が相談し合える環境を整えモチベーションアップを図った	
4 地域に根差した園の取り組みのPR	地域の清掃活動や商店街へのエコ活動のアピールを積極的に行う手作りおやつ行事へ招待・AED講習や講演会の実施	地域の方へのPRが不足しているため来年度は情報の発信から行いたい。	
目標と成果	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
	年間平均在所率100%	年間平均在所率78%	一号認定希望者が当初計画の15人には行かず2・3号希望者が多く定員以上の園児確保につながらなかった。定員を15人から5人へ変更。
	地域子育て支援拠点事業 年間利用者100名	年間利用者145名	他施設と同じ内容では利用者には選んでもらえないため親子クッキングの内容の見直しを図り新しい内容に取り組んでみる
	病後児保育事業年間利用者数 20名	利用者0名	0歳児の途中入園児に対応し看護師を配置の為事業が出来なかった。看護師を確保する。
	一時預かり事業年間利用者数 70名	年間利用者数67名 余裕活用型の為積極的には受け入れられなかった	職員体制をしっかりと行い一時預かりの断わらないような職員体制を心がける。
事故報告	内容	対策	
	6件 水遊び後扉付近で転倒し戸に後頭部をぶつけたんこぶが出来る(1歳女児) 鬼ごっこの際他児に衝突上唇小帯を切る(4歳女児) 小走りをし後ろを振り返りながら歩き転倒 右足のすねを骨折(4歳女児) 箱の車に出入りし箱のふちにぶつかり上唇小帯を切る(1歳男児)	遊びのマンネリ化などで飽きた時、遊びの展開の仕方を再確認。 幼児クラスでホールでの遊び方を再確認。 慌てるような事象に対しての声のかけ方を全クラスで再確認。 など事故を職員間で検証すると共にヒヤリハット事例を基に事故が続かないよう話し合いを持った	

平成28年度 施設別 年間事業報告  
施設名( 小規模保育所わかば保育園 )

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		
理念	家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る。		
項目	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 保育園としての保育理念・保育目標の理解と実践 説明保育の実践	生命の保持（健康管理や事故に対するの予防）を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える。	十分に広い場所と遊び道具が充実していた。  感染症対策に力を入れ体調管理に努め保護者に評価される。
	2 人材育成と職員の資質向上	子どもの心身の発達や変化、子育てに必要な情報など、子育ての手助けになれるようなアドバイスと保育説明の充実。	保育参観（誕生会）や毎日の送迎時に保護者と子どもについて共通理解をもつよう努めた。
目標と成果	数 値 目 標	実 績	来年度へ向けての方策
	年間平均在所率は100%	年間平均在所率は69%	小規模保育所の周知を積極的に行う。
事故報告	内 容		対 策
	眠気がある状態でハイハイ中手が上手く出ず上唇小帯を切る (10カ月女児)		園児生活リズムをホワイトボードで把握し適切に配慮する。
		玩具を持って他児にぶつかり転倒 (1歳児女児)	玩具の整理整頓に努める。

平成28年度 施設別 年間事業報告

施設名

(塩沢金城わかば子育て支援センター・金城クラブ・わかばクラブ・塩沢金城わかば児童館)

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	児童館活動および子育て支援拠点事業を通して、家庭や地域社会及び姉妹園関連施設と連携を図り、子どもたちに健全な遊びを与え、健康増進と情操の涵養を図る 一人ひとりの児童がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさを持てるよう、放課後児童クラブにおいて直接的基本的な体験をさせる。			
項目	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	放課後子ども環境整備事業による増改築	・学童保育の利用定員増に対応するための施設整備を行う。	学童保育のみならず、子育て支援においても活用できるような施設整備を行うことができ、利用者・保護者に好評である。
		2	児童館としての事業目的・運営指針の理解	・教職員間の共通理解および協力体制を確認しつつ、月一回日曜日に児童館行事を開催する
	・参加者のニーズに合わせた魅力ある子育て支援事業を実施するために、ママカフェを月一回開催し情報収集に努める。			ママズカフェで利用者から生の声を聞き取ることで、講座内容が地域の子育て家庭のニーズに合うものとなり、好評である。
	・自由来館者のニーズに合わせて館内環境設定の見直しを行う			増改築により各部屋の用途や設定を見直すことができた。自由来館の利用の幅が広がりがつつあるので、今後はより広報に努め、利用を伸ばしたい。
	3	保育者としての資質や能力・良識の向上	・「業務担当一覧表」を効果的に活用し、新規採用職員を含む教職員間の役割分担を明確にすることで、円滑な連絡協力体制を確立する	業務を分担したが、実行できているかの確認や協力体制は不十分であった。次年度はさらに各人の責任の所在を明確にして取り組みたい。
			・放課後児童クラブ運営指針に基づく、質の高い学童保育を目指す	放課後児童クラブ運営指針の確認を行った。次年度は3クラブに分割して運営する中で、よりきめ細かな学童保育の実践を行う。
			・職員の得意分野を生かした学童対象クラブ活動の充実	音楽クラブ・運動クラブ・工作クラブ・手芸クラブの各クラブを実施した。それぞれ充実した活動を行い、年度末の学童フェスティバルで発表できた。
			・自己点検・自己評価の継続	自己点検・自己評価を年2回実施。教職員間で課題を共有し、改善策を立て実行できた。
	4	地域の自然や社会とのかわりを強める	・姉妹園・学童のみでなく、地域の小学校・保育所にも情報発信し、行事参加を促す	積極的に行事の目的を交えて情報発信し、学童フェスティバルリハーサルに塩小の先生たちに参加いただいた。市立保育園への情報提供を定着させることが次年度の課題。
			・地域の公共施設及び関係者(子育てネットワーク会議等)・小学校との連携を図り、地域に密着した支援を行っていく	ネットワーク会議では、自己点検・自己評価および当施設で取り組んでいる各種事業について情報提供しご理解いただいた。
			・ボランティアを積極的に受け入れ、有意義な機会となるよう働きかける	学童保護者ボランティアのほかに、八海高校の生徒ボランティアも定着し、楽しく参加いただけた。
	5	環境教育の活用、定着	・学童保育に畑を活用し、自然体験・エコ活動につなげる	畑のほか、館外の施設を十分に活用することはできず、今後の課題である。
			・水光熱費、ごみなどの無駄をなくし、現在ある設備を有効活用することで経費削減を目指す	大規模な増改築により、経費については十分検討できず、今後の課題である。
	目標と成果	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
		・月一回日曜日に児童館行事(25~50人定員)を開催。地域に広く情報発信をすることで新規利用者を増やし、学童児童の講座・教室への参加を伸ばす(約18人・学童児の30%参加を目指す)	児童館行事の新規利用者年間累計50名。学童児の参加は累計235名で在籍児童の27.3%であった。	引き続き魅力的な情報の発信に努める。
事故報告	事故件数	内容	対策	
	0件	大規模な増改築に合わせ不要な備品や破損した遊具などをまとめて処分したため、ごみ処理費用が多かった。学童おやつを食べ残し目立った。	水光熱費・ゴミ処理費用・消耗品の削減などに加えて、学童おやつを残食削減に努める。	

平成28年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告  
施設名( 塩沢デイサービスセンターゆきつばき )

理 念		私たちは、ご利用者の皆様がゆきつばきでの生活を思う存分楽しんで頂けることを願っています。		
項 目		内 容	具体的方策	評価・反省
基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。	塩沢地域に密着した施設として、地域との関係を強化し、今後地域と共に永続的に発展できるよう基盤を固める。	地域包括支援センターやケアマネージャーより、ゆきつばきだから頼めるケースがあるという言葉を受けたのは自信に繋がった。今後も地域のニーズに応えられる施設を目指していく。
年度基本方針	1	職員一人ひとりが数字を意識した介護現場を目指す。	日々のご利用者の心身状態などをこまめに観察し、異常の早期発見に努める。そうすることで入院や入所施設への移行などを回避し、在宅での生活を維持することで、またゆきつばきの継続利用に繋げる。登録ご利用者数が多く、新規を受け入れられない状況ではあるが、日々の利用実績にはまだ空きがある。その空きを埋め、実績を伸ばす方法を上半期で考案し、下半期で	日々のご利用者の心身状態などの異常の早期発見に努め、状態の変化をご家族やCMに伝え連携を図ってきた。しかし、ご家族との認識の差を痛感することが多々あった。今後ご家族等との連携をより強めて冬季は体調を崩されるご利用者がやはり多い。入退院される方や亡くられる方もおられる中、新規の依頼も多くあり、年度中に盛り返せたのは良かった。
	2	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、地域に貢献する活動を実施することで、地域からの信頼を得るとともに、ゆきつばきの需要を高める。	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。 ボランティアの受入れなど、地域住民皆様から足を運んで頂き、地域に開かれた施設として信頼を得ていく。	夏の研修で若年性認知症の当事者の方からのお話を受け、ご本人の思い・ニーズを聴くこと引き出すことの大切さを学ぶことができ、ご利用者による会議の開催することになった。そのことにより、ご利用者主体の施設として前進できた。
	3	平成29年度からの、小規模わかばでの新規事業(総合事業等)の計画を進めていく。	総合事業(通いA型)の立ち上げの準備(サービス内容や具体的な人員配置など)を進めていく。	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流をご利用者の張り合いになっている。プローチ作りなど『役に立つ』機会をもっと増やしていきたい。地域の方が多く施設に来てくださるので、地域の方との距離が縮まってきているように思える。この関係性から地域の困りごとを一緒に考え、解決できるよう連携を図って地域の課題に応じた事業を考えていくため、視察などを行っている。地域の方の拠り所として、介護保険事業に拘らない形で、介護予防等
目標と成果		数値目標	実 績	来年度に向けての方策
		620/月(年間:7,440)	【H27年度】 634/月(年間:7,611) 【H28年度】 604/月(年間:7,258)	ゆきつばきの利用実績について、当初は毎月の実績平均を620以上を目指していたが604に留まった。これは冬季(1月、2月)の実績不振の影響が大いだが、3月には646と回復している。苦情等もなく、このまま数字が伸びて行ければと思う。
事故苦情報告	事故苦情件数	内 容		対 策
	0件			

# H28年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

## 施設名 居宅介護支援事業所 ゆきつばき

基本的な考え方	私達は地域の児童・高齢者の皆様のより良い生活の実現を目指し、時代に流れの先にある私達にしか考えないこと、私達だから挑戦しなければならないことを適時、的確に捉え自立した地域社会の一員としての自覚と幼児教育、福祉サービスの先駆者としての誇りをもち果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		
理念	住み慣れた地域で利用者が自分らしく生活できるように支援します。		
具体的方策	介護保険制度の中核としての自覚を持ち、地域に貢献できる事業所としての基礎作りを行います。		
項目	内容	具体的方策	評価、反省
年度基本方針	1 認知症ご利用者とその家族の気持ちを理解し適切な支援の実施	①認知症ケアについて学べる機会に積極的に参加する。(各種研修会、センター方式基礎研修)	①事業所としてセンター方式研修行なうことはできなかったが適宜必要に応じシートを使用し、利用者への理解を深めることができた。 ②サービス事業所と連携し本人の言動や思いについて確認を行なう機会を得た。明確な回答は得られないが支援者が変わることご本人の安心が増えるという事実は確認ができた。 ③事業所内での事例研究会がまだ定着しておらず、居宅会議にて相談はあげられるが検討までには到らずに終わることが多かった。 ④ご利用者をよく理解しアセスメント力を高めるためにもご本人のことを十分に理解することが必要であることを冬季研修にて確認ができた。生活への意向も含め再度、各自が確認を行なうように心がけている。
		②認知症ケアについてサービス事業所との連携をより深められる。(カンファレンス参加、わたしの手帳活用等)	
		③認知症ケアについて事業所内での検討(PDCAサイクルに基づき検討)	
		④ご利用者、ご家族に生活暦、生活に対する意向調査の実施	
	2 自分の仕事に誇りと喜びと自信の気持ちを持てる。	①個人研修計画の目標を意識し(研修俯瞰図より)仕事に従事する。	①各自が1年の目標を掲げ意識して1年間、仕事に従事することができた。また同時に仕事へのやりがいなどもそれぞれが感じることができた。 ②アンケート実施、アンケート集計を行いその結果については夏期研修にて話し合いを行いご利用者、ご家族の求めていること、また自分たちの仕事の役割、今後気をつけること等の再確認と今後どのような情報提供を行うかなど貴重な意見も頂き今後の仕事に生かすことができた。 ③各自が可能な限り事例検討会に出席し他ケアマネの事例を学ばせてもらった。次年度に向けての内容についても最終回に話し合いを行い、さらに充実した内容になるよう塩沢地域ケアマネで話し合いを行っている。 ④塩沢包括に点検、評価の依頼は行っていたが実際には行うことができなかった。(地域の事例検討会でもプラン点検の希望があるとのこと)事業所外からの評価の機会が得られるように次年度も計画する。
		②アンケートから見えてきた課題についての話し合いと改善策検討、実践。	
		③地域単位で開催される事例検討会に参加し、ケアマネとしてのスキルを向上させる。	
		④個々のケアプランに対し点検、評価を受ける。	
	3 書類や書類の管理について見直しを行い、より仕事をしやすい環境をつくる。	①契約書、重要事項説明書の見直し(H28年3月より実施)と活用後の検討	①契約書、重要事項説明書の見直しを行い、簡素化したことでケアマネの説明時の負担が減り、利用者への説明も行きやすくなった。 ②日々の業務に追われて現状の問題を話し合うまでには至らなかったが月途中と月末での業務の確認(ケアマネジメント一連の流れの進捗確認)を随時事業所内で声かけを行い運営基準順守を心がけた。 ③気が付いたことは居宅会議にて声を出し、改善の方法についてはその都度話し合いを行ってきた。次年度は新人育成とともに書類の管理方法なども視野に入れ整理していく必要があると感じる。
②書類、書類管理についての現状の問題についての話し合い			
③改善策の話し合いと実践。			
苦情の申し出	なし		
	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
目標と実績	利用実績、平均85人を維持する。	介護:879件 前年比115.8 % 予防:145件       "   78.8% 合計:1024件       "   108.5% 月平均 85.33人	今年度は目標を達成でき、職員各自が責任とやりがいを持ち仕事を行なうことができた。来年度、新人職員入職予定、新人教育を行ないながら職員の資質向上、業務の振り返り、専門的知識を更に広げより質の高い事業所となる。



平成28年度 施設別 年間事業報告

施設名( 雲洞デイサービスセンターつばき園・雲洞グループホームつばき園 )

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにかかると、私たちがから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	「その人らしさを尊重します」			
	「笑顔で誠実な対応をします」			
	「地域との繋がりを大切にします」			
項目	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	「自分の仕事に誇りを持つ」	・認知症介護のプロとしての誇りを持ち、積極的に研修に参加するなどして自己研鑽に励む。	・平成28年度は認知症介護リーダー研修に参加予定であったが、人員体制が確保できず、平成29年度の参加へ変更した。
	2	「同僚との絆を深める」	・思いやりの気持ちを大切にし、他職種の業務に対する理解を深める。	・本人、家族のことで中長期の休みが必要な職員がいたが、お互い様の気持ちでデイサービス、グループホームの連携、ゆきつばきからの応援により、業務を回すことができた。
	3	「認知症に対する取り組み」	・ご利用者の活動に生産性を取り入れ、出来ること、役に立てることを実感していただき、生きがい、やりがいを持って過ごしていただく。	・生産性を意識し、ご利用者に雑巾縫いを行なってもらったが、身体機能の低下などから徐々に出来なくなり、身体機能に応じた、替わりとなる活動を用意することが出来なかった。
			・ご利用者の「現在」に着目し、ご利用者本人がサービスの選択、決定、参画が出来る機会を提供できることを目標とする。	・活動の選択肢は少なかったが、ご利用者に選んでいただくことを重視し、各種活動を行うことができた。ご利用者が主体となって活動参加の有無や内容を定めるということが定着してきている。
			・認知症キャラバンメイトの取得、認知症サポーター養成講座の開催を通して、認知症の理解を広める。	・平成28年度は塩沢中学校1年生への認知症サポーター養成講座の開催をつばき園から講師を1名派遣しサポートすることができた。
	4	「自己点検・自己評価による職員の資質向上」	・職員全員が一定の水準で業務を行えるように、マニュアルの見直しを行う。	・防災関係のマニュアルに関しては見直すことが出来たが、全体的な見直しが実施出来なかった。
			・サービスの質の向上を目指し、認知症や介護の定期的な勉強会の開催を行う。	・法人研修などでは資質向上のための具体的な話し合いが出来たが、定期的な勉強会の開催が出来なかった。
・地域との関係性を職員全員が認識し、地域におけるつばき園の役割を明確にする。			・H28年度は毎週1回カラオケの地域ボランティアにお越しいただき、地域の方との繋がりを意識することが出来た。	
5	「雰囲気の良い施設作り」	・介護技術だけでなく、対人援助の基本となる接遇面においても、プロを目指し、つばき園に入居する誰もが心地よいと感じる環境を目指す。	・ご利用を開始される方の大半は、つばき園見学時の雰囲気を感じられ、ご利用されている。グループホームの面会者が入居者と大切な時間を過ごせるような配慮も定着してきている。	
6	「環境整備」	・利用者の過しやすい環境、職員が仕事のしやすい環境を意識し、規律、清潔、整頓を徹底する。	・職員個々が利用者の環境、仕事の効率化を考え、適宜提案が出ている。慣習に囚われず、現在のニーズに合った改善を続けていきたい。職員の定着による慣れ親しみが悪い方向に作用しないように規律を再認識することが重要と感じる。	
7	「運営改善/人材育成」	・職員一人ひとりの業務を精査し、一日の業務に無駄がないように体制を整えていく。 ・経費の節減に取り組む。 ・職員一人ひとりの適性を見極め、一つ上のレベルでの業務遂行を目指す。職員同士が切磋琢磨し、チーム全体で業務水準の底上げを目指す。	・職員の仕事量が均等になるように努力している。それぞれの職員の適性を見極め、効率よく業務が遂行できるように、今後も改善していきたい。またキャリアパスの仕組みを取り入れ、人材育成を効率的に進めていきたい。 ・経費の節減に関しては、消耗品の定期的な価格の調査を行い、使用感に問題なく、また安い商品を選んでいる。	
目標と成果	数値目標	実績		来年度へ向けての方策
	デイサービス 年間延べ利用者数 3180人(1日平均10人) グループホーム 年間延べ利用者数 3285人(365日×9人)	H28年度:1985人 前年度比:84% H27年度:2352人 前年度比:96%	H27年度:2352人 前年度比:96%	・継続して新規利用者を紹介してもらえるようにケアマネージャーへのつばき園の特色のアピール、利用者情報のフィードバックを充実させる。 ・入退居にかかる空き床期間を2週間以内とし、計画的に入退居の手続きを進める。
事故報告	事故苦情件数	内容		対策
	0件			